

## 案件概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	インド国
2. 案件名	ガンジス河流域村における水・土・森の自然資源共生型農業技術普及による持続可能な生計向上支援プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	ウッタル・プラデシュ州ガンジス河流域村の農業従事率は95%以上であるが、適切な技術や教育機会がなく農民世帯の生活が困窮している。また農民たちに基本的な自然資源共生の知識や理解がないため、農業にとって必要な水源、土壌、森林資源の汚染及び破壊活動が続いており、同地域の持続可能な農業発展が危機的状況にある。環境保全と生計向上を同時に実現していくためには、住民が理解し主体的に行動を継続することが重要であり、技術指導と住民組織の形成、及び住民の主体性を導く啓発活動が必要である。
4. プロジェクト目標	インド・ウッタル・プラデシュ州・ガンジス河流域モデル村地域において、自然資源を活用した農業技術（竹炭/果樹・ハーブ）の導入による生計向上・生活環境改善モデルが、モデル農家によって導入される
5. 対象地域	インド国 ウッタル・プラデシュ州・バラナシ県ガンジス河流域の3村（チャンドブル村、ラムナ村、ムスタファバード村）
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	ウッタル・プラデシュ州・バラナシ県のガンジス河流域のモデル村の農家及び住民（チャンドブル村、ラムナ村、ムスタファバード村のモデル抽出された90世帯及び住民1000人）
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p>&lt;アウトプット&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 竹炭を活用した有機農業技術の導入に対するモデル農家の理解・知識が高まる</li> <li>2. 森林再生・保全型の果樹・ハーブ栽培・販売の知識・スキルをモデル農家が習得する</li> <li>3. モデル村内において住民の自然資源の保全・持続可能な活用に関する理解と意識が向上する</li> </ol> <p>&lt;活動&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 竹炭を活用した環境負荷の少ない有機農業技術の導入               <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 農民への啓発活動（住民説明会、推進グループの結成、セミナー開催）を行う</li> <li>1-2 竹炭の活用講習（指導教材作成、有機たい肥づくり、生活排水の浄化手法の実演講習）を実施する</li> <li>1-3 竹の栽培、竹炭を活用した有機栽培の持続的な栽培体制を整える</li> <li>1-4 有機農作物の販路を開拓する</li> <li>1-5 竹炭釜の製造を行う</li> <li>1-6 竹炭の活用推進体制を確立する（コアメンバー（村重役、政府関係者、推進グループメンバー）の研修、（訪日研修）、継続的な販売体制構築、普及用教材（マニュアル）の作成）</li> </ol> </li> <li>2. 森林再生と保全が一体となった果樹・ハーブ栽培               <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 農民への啓発活動（住民説明会、推進グループの結成、セミナー開催）を実施する</li> </ol> </li> </ol>

	<p>2-2 果樹・ハーブ栽培活動（指導用教材作成、植樹・植栽・剪定指導・管理）を行う</p> <p>2-3 果実・ハーブの販路を開拓する</p> <p>2-4 植栽地の管理体制を確立する（コアメンバーの研修、（訪日研修）、継続的な販売体制構築、普及用教材（マニュアル）の作成）</p> <p>3. モデル村内において自然資源の保全・持続可能な活用に関する理解と意識の向上</p> <p>3-1 住民を対象としたセミナー（植林活動含む）を実施する（ガンジス河の河川汚染に関する知識・植林活動等）</p> <p>3-2 モデル的取組の成果等の教材を作成し、公開する</p>
8. 実施期間	2023年10月2日～2027年10月1日
9. 事業費概算額	91,764,200円
10. 現地カウンターパート	現地 NGO (Srijan Social Development Trust, Farmer' s School)
<b>II. 実施団体の概要</b>	
1. 提案地方公共団体名／団体名	公益財団法人オイスカ
2. 活動内容	アジア太平洋地域を中心とした34の国と地域に関連機関を持ち、各国の青年を国内に招聘し、技術研修を実施。彼ら研修修了生がそれぞれの国において取り組んでいる人材育成や環境保全、農村開発活動を支援している。